

奉獻本部結成にあたり鈴木本部長伊勢市長、上島理事長(伊勢商工会議所会頭)からの挨拶を要約してお伝えいたします。

この度、私は、この本部の栄えある本部長の大役を仰せつかり身に余る光栄と存じます。この行事は皆様のお力をお借りしなくては行うことができません。私も力一杯頑張る所存でございます。今後、皆様と力を合わせて進めてまいりたいと思っておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は、約八百八十万人を超える方々が伊勢を訪れて下さり、記録の残っております中では最高となりました。これは、神宮様はじめ関係各位のご努力が実を結んだ賜物で、そのご尽力に感謝申し上げます。

平成二十五年の第六十二回神宮式年遷宮にむけ、平成十七年の御樋代木奉曳(みひろぎほううい)からはじまり、平成十八年、十九年のお木曳行事と執り行われてまいりました。いよいよ、御遷宮に向け最高潮となるお白石持に向け



鈴木本部長挨拶

始動しました。この機会に、県内外からお越しいただく方も増えることと思います。お越し下さった皆様が、御遷宮後も、再び伊勢を訪れていただけるようなおもてなしを心がけてまいりたいと存じます。

どうぞ、お白石持行事の成功に向け、ご尽力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、第六十二回神宮式年遷宮御白石奉獻本部結成にあたってのご挨拶とさせていただきます。



上島理事長挨拶

この度は理事長の選任を受けまして、一言ご挨拶申し上げます。

さて、平成二十五年の第六十二回式年遷宮に向けましては、平成十六年に御遷宮対策事務局を設置して以降、お木曳行事、宇治橋架け替え奉祝事業を中心に、地域が一体となり取り組んでまいりました。

そして、本日ここに、お白石持行事に向けた奉獻本部の結成式を迎えましたことは、神宮様をはじめといたします関係各位の皆様、そして地域の奉獻団の皆様あつてのことと存じます。ご存知のとおり、社会情勢の変化に

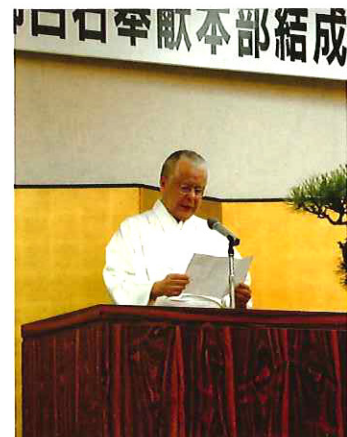


結成式の締めくくりに出席者一同による万歳三唱

伴い、全国規模でまちのありようを問う問題が取りあげられておりますが、伊勢のまちは永く伝統とする神宮様へのご奉仕を通じ地域が結束し、これまでも幾多の困難を乗り越えてきたようにも思えます。

そのなかで、神宮様とともに歩み、ともに栄えてきたまちとして、この式年遷宮にかかるお木曳行事、お白石持行事は私ども地域にとりまして新たな息吹となる一大行事であり、一方で広く全国からも大きな関心が寄せられております。

現在、伊勢のまちはまた二十年前とは異なる様相を呈しておりますが、現世代の担い手として、皆様と一緒に尽力して参りたく、どうぞご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



神宮大宮司
鷹司尚武様よりお言葉を賜りました。

お白石拾いに出掛けましょう



冬の寒さも終わりを告げ、日々暖かい春の日差しが射し込めるころとなつてまいりました。

宮川河畔の桜も間もなく満開。この絶好の時節に、お白石を拾いに出掛けませんか。町や団単位、あるいはご家族友人と誘い合わせて新宮の御敷地にお納めするお白石を探しに出掛けましょう。

何よりも、お白石を集めることからお白石持行事ははじまるのです。二年先に、檜の香り漂う白木の御殿を拝す日に思いを寄せながら、着実に準備を進めたいものです。

